

船舶事故調査報告書

令和7年4月23日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	乗揚
発生日時	令和6年10月5日 08時00分ごろ
発生場所	沖縄県 ^{とかしき} 渡嘉敷村ナガンヌ島北方沖 ナガンヌ島北西方灯標から真方位070° 790m付近 (概位 北緯26° 16.6′ 東経127° 32.1′)
事故の概要	漁船 ^{ゆい} 唯丸は、西進中、リーフに乗り揚げた。
事故調査の経過	令和6年10月8日、主管調査官（那覇事務所）を指名 原因関係者から意見聴取手続実施済
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	漁船 唯丸、4.9トン ON3-24699（漁船登録番号）、個人所有 第296-13065号（船舶検査済票の番号）
乗組員等に関する情報	船長、一級小型（令和6年9月9日をもって失効中）
負傷者	なし
損傷	船尾部船底外板に破口及び擦過傷、プロペラ翼に曲損、舵柱に折損、 操縦室が倒壊、機関に濡損（全損）
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 北、風速 約8m/s、視界 良好 海象：波高 約1.5m、潮汐 上げ潮の末期
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、漁を行う目的で、GPSプロッターを作動させ、沖縄県浦添市^{まきみなと}牧港漁港を出港し、沖縄県久米島西方沖の漁場に向けて、ナガンヌ島北東方沖を約7ノットの対地速力で西進していた。 船長は、ふだん牧港漁港を出港する際、GPSプロッターの表示範囲を1海里（M）（中心から約0.5M）とし、港内での船位を確認して港外に出た後、同表示範囲を広域表示に切り替え、目的地に向かう途中で接近する遠方の島を表示させていたが、本事故当時は、考え事をしていたので、1Mの表示範囲のまま操船を続けていた。 船長は、ナガンヌ島北西方沖のナガンヌ島北西方灯標を正船首やや左舷方に、また、同島を左舷方に視認した。 船長は、本船がナガンヌ島北方沖を十分に離れて航行していると思い込み、そのままナガンヌ島北西方灯標を同方向に見て、引き続き考え事をしながら目視により操船を続けていたところ、船底を擦る音が聞こえた後、行きあしが止まり、本船がナガンヌ島北西方沖のリーフ[*]1に乗り揚げたことに気付いた。 （図1 参照）

*1 「リーフ」とは、島を取り囲む外側のさんご礁のことをいう。環状に島の陸地を囲むように形成されるものが多い。

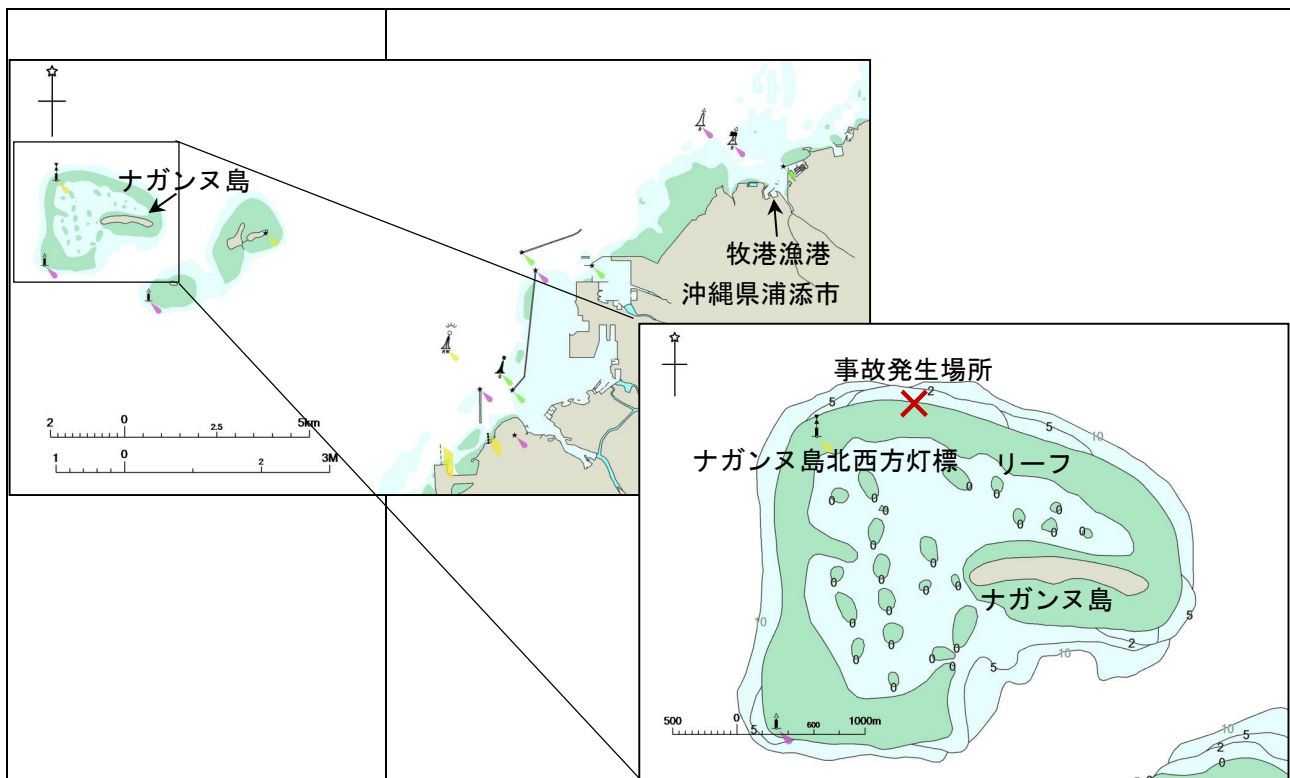


図1 事故発生場所概略図

船長は、一旦機関を中立運転として後進にかけたものの、本船を離礁させることができず、船内に浸水しているのを認め、錨を投下して錨索を固定したところ、本船が左に傾いた状態となり、そのまま風波によって南方に圧流されて転覆した。

船長は、落水した後、船底に自力で這い上がった。

船長は、僚船の船長に電話で救助を要請し、来援した僚船によって救助された後、118番通報を行い、牧港漁港に帰港した。

本船は、後日、所属の漁業協同組合が手配したサルベージ会社の作業船によって回収され、沖縄県中城湾港馬天地区まで移送された後、解体処分された。

船長は、ふだん漁場に向かう際、GPSプロッターでナガンヌ島を表示させ、同島北方沖約1～2Mを操船していたが、本事故当時、同島とナガンヌ島北西方灯標を視認した後、同島との距離を目測したのみで、同プロッターで船位を確認せず、等深線5m未満の海域（浅所）との距離を把握していなかった。

本船の喫水は、船首約0.5m、船尾約1.5mであった。

船長は、救命胴衣を着用していた。

分析

本船は、西進中、船長が、ナガンヌ島と自船の距離を目測したのみで、GPSプロッターを使用して船位を確認しなかったことから、同島との距離がふだんよりも近いことに気付かず、リーフに乗り揚げたものと考えられる。

船長は、ふだん牧港漁港を出港する際、GPSプロッターの表示範

	囲を約 1 M とし、港外に出た後、同表示範囲を広域表示に切り替え、目的地に向かう途中で接近する遠方の島を表示させていたものの、本事故当時、考え事をしていたことから、1 M の表示範囲のまま操船を続けていたものと考えられる。
原因	本事故は、本船が、西進中、船長が、ナガンヌ島と自船の距離を目測したのみで、GPSプロッターを使用して船位を確認しなかったため、リーフに乗り揚げたものと考えられる。
再発防止策	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。 ・ 船長は、目視による島等との距離感に頼ることなく、航行する海域に応じてGPSプロッターを適切な縮尺表示とし、島等の陸地からの距離を把握して浅所からの距離を十分に離して航行すること。 ・ 船長は、常時、操船に集中し、島との距離が近い海域を操船中は、GPSプロッターで船位の確認を適切に行うこと。 ・ 船長は、日頃から海図等により航行する海域の水路調査を行い、島付近に存在する浅所の陸岸からの距離、水深等を十分に把握すること。